

## §5.1 不等式の性質

実数の大小関係に関する法則・定理をいくつか加えます。

**法則 5.1.1** 任意の実数  $a, b, c$  について、 $a < b$  かつ  $b < c$  ならば、 $a < c$  .

**定理 5.1.1** 任意の実数  $a, b, c$  について以下のことが成り立つ：

$$a < b \text{ かつ } b \leq c \text{ ならば、 } a < c \text{ ;}$$

$$a \leq b \text{ かつ } b < c \text{ ならば、 } a < c \text{ ;}$$

$$a \leq b \text{ かつ } b \leq c \text{ ならば、 } a \leq c \text{ .}$$

**証明** 例として “ $a < b$  かつ  $b \leq c$  ならば  $a < c$ ” を証明する。

実数  $a, b, c$  について  $a < b$  かつ  $b \leq c$  と仮定する。  $b \leq c$  なので、法則 1.5.1 より、 $b < c$  または  $b = c$  .  $a < b$  なので、 $b < c$  のとき法則 5.1.1 より  $a < c$  . また、 $a < b$  なので、 $b = c$  のとき  $a < c$  . このように、 $b < c$  のときも  $b = c$  のときも  $a < c$  . (証明終り)

**定理 5.1.2** 任意の実数  $a, b, c, d$  について、

$$a < b \text{ かつ } c < d \text{ ならば } a + c < b + d \text{ ,}$$

$$a \leq b \text{ かつ } c \leq d \text{ ならば } a + c \leq b + d \text{ .}$$

**証明** 例として “ $a < b$  かつ  $c < d$  ならば  $a + c < b + d$ ” を証明する。

$a < b$  かつ  $c < d$  と仮定する。  $a < b$  なので、法則 1.5.3 より

$$a + c < b + c \text{ .}$$

また、 $c < d$  なので、法則 1.5.3 より  $c + b < d + b$  , つまり

$$b + c < b + d \text{ .}$$

このように、 $a + c < b + c$  かつ  $b + c < b + d$  なので、法則 5.1.1 より  $a + c < b + d$  .

(証明終り)

**定理 5.1.3** 任意の実数  $a$  について、

$$a^2 \leq 0 \iff a^2 = 0 \iff a = 0 \text{ ,}$$

$$a^2 > 0 \iff a^2 \neq 0 \iff a \neq 0 \text{ .}$$

**証明** 定理 1.5.10 より  $a^2 \geq 0$  なので、 $a^2 \leq 0$  ならば、定理 1.5.4 より  $a^2 = 0$  , よって定理 1.1.2 より  $a = 0$  . 逆に、 $a = 0$  ならば、 $a^2 = 0$  なので、定理 1.5.1 より  $a^2 \leq 0$  . 故に

$$a^2 \leq 0 \iff a^2 = 0 \iff a = 0 \text{ .}$$

従って<sup>1)</sup>

$$a^2 \not\leq 0 \iff a \neq 0 \text{ .}$$

法則 1.5.2 より、

$$a^2 > 0 \iff a^2 \not\leq 0 \iff a \neq 0 \text{ .}$$

(証明終り)

**定理 5.1.4** 任意の実数  $a, b$  について、

$$a^2 + b^2 \leq 0 \iff a^2 + b^2 = 0 \iff a = 0 \text{ かつ } b = 0 \text{ .}$$

**証明** 定理 1.5.10 より  $b^2 \geq 0$  , 定理 1.5.5 より  $-b^2 \leq 0$  .  $a^2 + b^2 \leq 0$  ならば、 $a^2 \leq -b^2 \leq 0$  , 定理 5.1.3 より  $a = 0$  . 同様に、 $a^2 \geq 0$  より  $-a^2 \leq 0$  なので、 $a^2 + b^2 \leq 0$  ならば、 $b^2 \leq -a^2 \leq 0$  , 定理 5.1.3 より  $b = 0$  . 逆に、 $a = 0$  かつ  $b = 0$  ならば、 $a^2 + b^2 = 0$  なので、 $a^2 + b^2 \leq 0$  . (証明終り)

実数  $a, b, c$  に対して、“ $a < b$  かつ  $b < c$ ” ということを  $a < b < c$  というように、“ $a \leq b$  かつ  $b \leq c$ ” ということを  $a \leq b \leq c$  というように書き表します。

**定理 5.1.5** 任意の実数  $a, b, c, d$  について、

$$0 \leq a < b \text{ かつ } 0 \leq c < d \text{ ならば } ac < bd \text{ ,}$$

$$0 \leq a \leq b \text{ かつ } 0 \leq c \leq d \text{ ならば } ac \leq bd \text{ .}$$

**証明** 例として “ $0 \leq a \leq b$  かつ  $0 \leq c \leq d$  ならば  $ac \leq bd$ ” を証明する。

$0 \leq a \leq b$  かつ  $0 \leq c \leq d$  と仮定する。  $a \leq b$  かつ  $c \geq 0$  なので、定理 1.5.7 より  $ac \leq bc$  . また、 $c \leq d$  かつ  $b \geq 0$  なので、定理 1.5.7 より  $cb \leq db$  . このように、 $ac \leq bc$  かつ  $bc \leq bd$  なので、定理 5.1.1 より  $ac \leq bd$  . (証明終り)

**定理 5.1.6** 任意の実数  $a$  と  $b$  について、

$$0 \leq a < b \text{ ならば } a^2 < b^2 \text{ ,}$$

$$0 \leq a \leq b \text{ ならば } a^2 \leq b^2 \text{ .}$$

**証明** 例として  $0 \leq a < b$  ならば  $a^2 < b^2$  を証明する。

定理 5.1.5 より、任意の実数  $a$  と  $b$  について、

$$0 \leq a < b \text{ かつ } 0 \leq a < b \text{ ならば、 } aa < bb \text{ ;}$$

つまり、 $0 \leq a < b$  ならば  $a^2 < b^2$  . (証明終り)

実数  $a$  と  $b$  について、 $a^2 < b^2$  のときいつも  $a < b$  とは限りません；例えば、 $a = 2$  ,  $b = -3$  とすると、 $a^2 < b^2$  ですが  $a \not< b$  です。しかし、 $b \geq 0$  ならば、 $a^2 < b^2$  のときいつも  $a < b$  です。

**定理 5.1.7** 任意の実数  $a$  と  $b$  について以下のことが成り立つ：

$$a^2 < b^2 \text{ かつ } b \geq 0 \text{ ならば、 } a < b \text{ ;}$$

$$a^2 \leq b^2 \text{ かつ } b \geq 0 \text{ ならば、 } a \leq b \text{ .}$$

**証明** “ $a^2 \leq b^2$  かつ  $b \geq 0$  ならば、 $a \leq b$ ” を証明する。

$b \geq 0$  と仮定する。  $a > b$  ならば、仮定  $0 \leq b$  より  $0 \leq b < a$  なので、定理 5.1.6 より  $b^2 < a^2$  ; つまり、 $a > b$  ならば  $a^2 > b^2$  . 対偶をとると、

$$a^2 \not> b^2 \text{ ならば } a \not> b \text{ .}$$

法則 1.5.2 より、

$$a^2 \not> b^2 \iff a^2 \leq b^2 \text{ , } a \not> b \iff a \leq b \text{ ,}$$

従って、 $a^2 \leq b^2$  ならば  $a \leq b$  .

つまり、 $b \geq 0$  とすると、 $a^2 \leq b^2$  ならば  $a \leq b$  . 故に、 $a^2 \leq b^2$  かつ  $b \geq 0$  ならば、 $a \leq b$  . (証明終り)

例えば、2 と 5 について  $2 < 5$  ですが、それらの逆数  $\frac{1}{2}$  と  $\frac{1}{5}$  については  $\frac{1}{2} > \frac{1}{5}$  となります。一般的に次の定理が成り立ちます。

**定理 5.1.8** 任意の実数  $a$  と  $b$  について、

$$0 < a < b \text{ ならば } \frac{1}{a} > \frac{1}{b} \text{ ,}$$

$$0 < a \leq b \text{ ならば } \frac{1}{a} \geq \frac{1}{b} \text{ .}$$

**証明** 例として “ $0 < a < b$  ならば  $\frac{1}{a} > \frac{1}{b}$ ” を証明する。

$0 < a < b$  と仮定する。  $a > 0$  ,  $b > 0$  なので、定理 1.5.8 より  $ab > 0$  , 従って定理 1.5.11 より  $\frac{1}{ab} > 0$  .  $a < b$  かつ  $\frac{1}{ab} > 0$  なので、法則 1.5.3 より  $a \frac{1}{ab} < b \frac{1}{ab}$  , つまり  $\frac{1}{b} < \frac{1}{a}$  . (証明終り)

変数  $x$  に関する不等式とは、 $x$  に関する条件を表す不等式のことです。1.9 節で述べたように虚数には大小関係がありませんから、特に断りがない限り、不等式に表れる変数は実数を表します。それで、不等式に現れる変数  $x$  については、“実数を表す変数  $x$ ” というべきところを“変数  $x$ ” ということにします。

<sup>1)</sup> 0.6 節で述べたように、述語  $A$  と  $B$  について、“ $A \iff B$ ” のとき “ $A$  でない  $\iff B$  でない” でした。